

# 緑光

RYOKKOU

No.71 2017年3月



オイレス工業株式会社藤沢事業場



一般財団法人同友会藤沢湘南台病院

# M<sup>ごあいさつ</sup>essage

藤沢市工場等環境緑化推進協議会

佐藤 博之

いすゞライネックス株式会社藤沢事業所

春暖の候、会員事業所の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。また当協議会の平成28年度事業活動においては、皆様のご協力により無事終了できましたことを、この紙面をお借りして御礼申し上げます。

この1年間を振り返りますと、本年度もさまざまな出来事がありました。中でも特に印象に残るのは観測史上初となる2日連続の熊本地震、8月のリオオリンピックでの過去最多メダル獲得と天皇陛下の譲位の意向、オバマ米国大統領による広島訪問、イギリスのEU離脱、女性初となる小池百合子東京都知事の誕生、太平洋側から上陸する迷走台風の発生等々 私たちが初めて経験する出来事が多かった年であったように思われます。



このように、いつどこで何が起こるか分からないご時世の中、住みよい街「藤沢」を目指し、我々「藤沢市工場等環境緑化推進協議会」は、「緑と花いっぱい推進の集い」を筆頭に様々な活動に取り組むのは元より、「藤沢市みどりいっぱい市民の会」を始めとする関係諸団体や「藤沢市みどり保全課」と強力に手を取りあい、緑化の機運を築き上げていく所存です。

今後も藤沢市の緑化事業において、当協議会に求められる役割を果たすべく、協議会運営を継続していきたいと考えておりますので、皆様方のご支援とご協力をお願い申し上げます。

## 第43回総会

General meeting



藤沢市工場等環境緑化推進協議会の第43回総会を平成28年4月14日(木)、湘南クリスタルホテルにて開催いたしました。当日は会長の挨拶のあと、来賓の鈴木恒夫藤沢市長、藤沢市みどりいっぱい市民の会相原厚志会長からご祝辞をいただき、議事に入りました。平成27年度の事業報告・決算報告・監査報告の承認のあと、平成28年度役員の変更・事業計画及び収支予算などが承認され、無事に審議を終えることができました。

総会終了後には懇親会を開催し、会社紹介や自己紹介に始まり、様々な情報交換を行なって和やかな時間を過ごしました。

(事務局 記)

## ●平成28年度事業報告

事業	内容	実施日・場所
総会	第43回総会	平成28年4/14(木) 湘南クリスタルホテル
役員会	全体役員会	平成29年1/26(木) 藤沢市役所5階建設総務課横会議室 平成29年3/3(金) フジサワ名店ビル6階Bホール
ブロック会議	ブロックごとの座談会	平成28年12/9(金) 湘南NDビル6階6-1会議室
緑化技術講習会	樹木と花の病害虫～薬の種類や駆除方法	平成28年7/11(月) 長久保公園都市緑化植物園
機関誌発行	「緑光」No.71号	平成29年3月末
視察見学会	工場敷地内の緑化活動の見学	平成28年9/14(水) 横浜ゴム株式会社及び第一三共プロファーマ株式会社
第35回藤沢市 緑と花いっぱい 推進の集い記念事業 グリーンキャンペーン	藤沢市みどりいっぱい市民の会・藤沢市・ 当協議会の共催による花苗の配布と みどり基金の募金活動	平成28年10/15(土) 辻堂駅北口ペDESTリアンデッキ
第35回藤沢市 緑と花いっぱい 推進の集い	藤沢市みどりいっぱい市民の会・藤沢市・ 当協議会の共催による緑化推進大会	平成28年11/12(土) 藤沢市民会館大ホール
湘南グリーン コネクション2016 (※緑化技術講習会講義部門)	かながわトラストみどり財団の主催に よる湘南地区緑化推進講義	平成28年10/6(木) 藤沢市民会館

## ●平成28年度 藤沢市工場等環境緑化推進協議会役員

平成28.4～平成29.3

役職	事業所名	ブロック	代表者	担当者	事業担当	
会長	いすゞライネックス(株)藤沢事業所	B	三瀧 義弘	佐藤 博之	かながわトラスト	
副会長	(株)神戸製鋼所藤沢事業所	A	永田 学	高橋 節夫	ブロック	かながわトラスト
副会長	日本精工(株)藤沢工場	C	石川 進	平澤 建夫	集い	機関誌
会計監査	NOK(株)藤沢事業場	C	長澤 晋治	伊勢田 茂	講習	機関誌
会計監査	ミネベアミツミ(株)藤沢工場	A	浅川 英男	長谷川拓夫	視察	集い
会計	シロキ工業(株)藤沢工場	B	平田 政彦	秋間 知幸	機関誌	集い
幹事	東京ラヂエーター製造(株)	A	林 隆司	山路 秀樹	講習	機関誌
	オイレス工業(株)藤沢事業場	A	飯田 昌弥	泉谷 忠幸	視察	機関誌
	いすゞ自動車(株)藤沢工場	A	安室 幸夫	近藤 光吉	視察	ブロック
	A K S 東日本(株)	A	重松 拓也	長谷川裕一	機関誌	講習
	プレス工業(株)藤沢工場	A	小川 敏宏	高井 美来	視察	ブロック
	ナショナル・ベンディング(株)湘南第一営業所	A	藤山雄一郎	高橋 博人	集い	講習
	(株)ヤクルト本社湘南化粧品工場	B	柳澤 敏哉	宮原 秀夫	集い	ブロック
	(株)荏原製作所藤沢事業所	B	白樫 充彦	大羽 宏	視察	ブロック
	アズビル(株)藤沢テクノセンター	C	斧原 昭良	中野 隆行	視察	講習
	東レ(株)基礎研究センター	C	伊関 克彦	竹内 澄人	集い	ブロック
池上通信機(株)システムセンター	C	宮内 博紀	小野寺純一	機関誌	講習	

事務局	藤沢市役所みどり保全課
-----	-------------

集い…………… 推進の集い

視察…………… 視察見学会

機関誌…………… 機関誌発行

講習…………… 緑化技術講習会

ブロック…………… ブロック会議

かながわトラスト…(公財)かながわトラストみどり財団湘南地区推進協議会



## 緑化技術講習会

Greening technology course

平成28年度の緑化技術講習会を、当協議会会員企業14社17名と事務局が参加して開催しました。

講座名：樹木と花の病害虫～薬の種類や駆除方法

日時：2016年(平成28年)7月11日(月) 午後2時30分～午後4時30分

場所：長久保公園都市緑化植物園 みどりの相談所 2階研修室

内容：植物の病気や害虫を未然に防ぐ方法や薬品の紹介、発生後の駆除方法

講師：住友化学園芸株式会社 園芸相談員 望月 明利先生

講演では、グリーンアドバイザー園芸ソムリエでもある望月先生から病害虫の種類と駆除方法について詳しく説明していただきました。

まず、農薬とは植物の病害虫退治に使用する薬剤や、植物の生理機能に影響を及ぼす薬剤はどんなものでも農薬になるもので、植物の薬として農薬を使用しています。

防除の基本として生物的・物理的・化学的防除法があり、散布面積や対象面積での薬剤の選び方に違いがあります。1年以内で使い切る容量の製品を選ぶのがポイントだそうです。

上手な防除のポイント(散布前)として、効果・薬害等の注意、安全使用上の注意を必ず読むこと、最近では安全性重視で昔ほど効果がないので適した時期を逃さない事が大事です。又、濃ければ良い物でもないと言われていました。

散布は、高温だと薬害が出やすいので高温時(30℃以上)の散布は控える。散布してから6時間雨が降らなければ薬が流れないで効果がでるので、雨が予想される時は散布を控えて欲しいとのことでした。

適用病害虫・使用方法の表の見方として、記載されていない食物作用には使用してはいけないことが基本です。トマトとミニトマトは農薬からみると違う作物だそうです。又、収穫は散布してから7日以上経ってから行って欲しいそうです。

代表的な害虫の種類(ダニ目・カメムシ目・チョウ目・コウチュウ目)と、病気の種類においては写真を多用して非常に詳しく説明していただきました。



参加された事業所の方々是非常に関心を示され、いろいろな質問やアドバイスを受けておられました。

最後になりましたが、今回の講習会にあたり藤沢市みどり保全課の方々、長久保公園都市緑化植物園の方々にはご尽力していただき、紙面をお借りして御礼申し上げます。

(NOK株式会社藤沢事業場 伊勢田 記)



## グリーンコネクション

Green connection

平成28年10月6日(木)藤沢市民会館第二展示集会ホールにて湘南グリーンコネクション2016が開催されました。

講演内容は「カワセミの繁殖生態」(講師：矢野 亮氏)で、カワセミの営巣から雛の巣立ちまでを講師の方の観察記録を中心にご説明いただきました。上部からの産室内映像やはく製といった珍しい資料を使用した興味ひかれる内容でした。参加者には各市町村にて地域緑化に関心の高い方や実際に携わっている方も多く、今後の湘南地区の環境保全に有意義な講演となりました。(事務局 記)





## 視察研修会

Inspection excursion



今年度は平塚市工場等環境緑化推進協議会との交流も兼ね、平塚市にある横浜ゴム株式会社と第一三共プロファーマ株式会社の視察見学をさせていただきました。

最初に視察見学させていただいた横浜ゴム株式会社では、“千年の杜”として工場の周りを木々で囲む取組みをされていました。自社で木の実から苗木を育て、緑地化するスペースに苗木を植えられています。植える方法も一般的な植え方ではなく、1平米あたり5・6本植え、競わせることで成長を促進させ、木々が成長しても間引きはせずに自然淘汰に任せていました。また、剪定も定期的に行わず通行の妨げにとなる箇所のみ剪定として、自然の森に近い状態での緑化を進められていました。

続いて視察見学させていただいた第一三共プロファーマ株式会社では、敷地周辺のブロック塀を生垣とフェンスに変更されたり、敷地内の道路に街路樹を植えたりするなどの緑化の取組みをされていました。医薬品の製造をされ、異物混入を防止しなければならない中、建物の周囲の緑地は、建物から少し離して造られるなどの工夫をされています。また、万が一、緑地の木が病気などで枯れてしまってもすぐに植えかえられるように敷地内の一角には予備の木が植えられるなど、計画的に緑化を進められていました。

両工場の緑化への取組みはタイプが異なり、緑化への取組みはさまざまな方法があると改めて勉強させていただきました。今後の自社の緑化に活かしていきたいと思います。

最後になりましたが、お忙しい中受け入れていただきました横浜ゴム株式会社の皆様、第一三共プロファーマ株式会社の皆様、視察見学にご協力いただきました平塚市工場等環境緑化推進協議会の皆様、バスを提供していただいたいすゞ自動車様、企画・諸手配をいただきました役員・事務局の皆様にご場をお借りいたしまして御礼申し上げます。

(プレス工業株式会社藤沢工場 高井 記)



## ブロック会議

Block conference

平成28年度のブロック会議を平成28年12月9日(金)湘南NDビル6階6-1会議室で行いました。

議事は本年度の事業経過報告、予算執行状況、役員改選等についてで、出席した会員が3ブロック(事業所の所在地がA:市内北部、B:市内中部、C:市内南部にある計3ブロック)に分かれ、各ブロックの意見交換が行なわれました。意見交換後には討議内容を各ブロックの代表者が発表し、次年度の各事業に反映することとしました。

(事務局 記)



## グリーンキャンペーン

平成28年10月15日(土) 午前9時半～午後0時45分



第35回藤沢市緑と花いっぱい推進の集いの開催を記念し、辻堂駅北口ペDESTリアンデッキ上にてグリーンキャンペーンを行いました。

当日は、海の女王の2名とふじキュンを迎え、藤沢市緑と花いっぱい推進の集い運営委員会実行委員を中心とした各団体からの参加者が、往来する人達に緑化推進PRチラシ3,000部と花の苗2,000株などを配布し、藤沢市みどり基金の募金活動を行いました。また、アトラクションとして「鵜沼正栄会」様による笛太鼓の演奏も行われました。



(藤沢市緑と花いっぱい推進の集い運営委員会事務局 記)

Greening Campaign

# 推進の集い

平成28年11月12日(土)

緑の重要性を改めて見直すとともに、藤沢の緑を守り育て、市民による「緑と花いっぱい運動」をさらに推進していくために開催している推進の集いも今回で35回目を迎え、約980名の来場者でにぎわう中、藤沢市民会館大ホールにて開催しました。

主催者、委員長、来賓あいさつの後、平成28年度「緑と花のまちづくり」の各表彰(緑と花いっぱい功労者・ポスターコンクール入賞者・学校花だんコンクール入賞者等)を行いました。

表彰式終了後のアトラクションは、落語家3名をお呼びし、大変な盛り上がりとなりました。

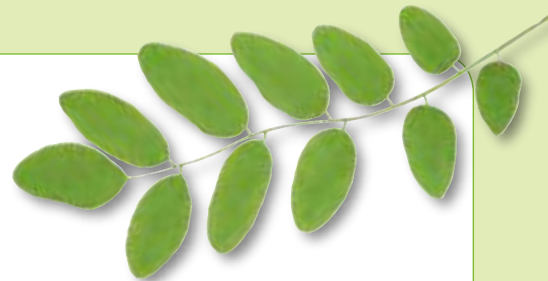
最後に工場等環境緑化推進協議会を中心としたお楽しみ抽選会を行い、来場された方々に協議会所属事業所等から提供された景品を抽選でお渡しし、盛会裡に終了いたしました。

今回も皆様より数多くの景品・賞品の寄付をいただきましたことに、厚く御礼申し上げます。

(藤沢市緑と花いっぱい推進の集い運営委員会事務局 記)



# Member Introduction



## メルシャン株式会社 藤沢工場

- 事業所名** メルシャン株式会社 藤沢工場
- 所在地** 藤沢市城南4丁目9番地1号
- 代表者** 代表取締役社長・CEO 横山 清
- 事業所長** 執行役員 藤沢工場長 高谷 道夫
- 事業内容** ワインを中心とした酒類製造業

私ども藤沢工場は、1920年(大正9年)に設立された大日本醸造(株)が前身です。その後合併や社名変更を経て、1990年(平成2年)に社名を現在のメルシャン(株)とし、2010年からはキリングroupの一員として、社会と共有できる価値を創造していけるよう活動しています。

事業としてはワインを中心に600を超える品目を製造・包装し、メルシャン社の酒類生産数量の9割強を支える主力工場であり、同じ敷地内にはキリン(株)ワイン技術研究所も併設した、研究開発と製造が一体となった製造拠点です。また、実は神奈川県は全国No.1のワイン生産地(※)なのですが、この9割強を藤沢工場が製造しており、国内最大規模のワイン工場でもあります。(※平成26年国税庁酒税関係総括表)

主力製品は1,000円以下で気軽にお買い求めいただける「デイリーワイン」で、“お客様の価値・意識を考慮した商品設計”“気軽に購入でき、満足度の高い品質の実現”“いつでもどこでも安心・安全でおいしいワインを提供する”ことを3つの約束として、日々の製造に臨んでいます。例えば、気軽さを訴求するために、軽くて割れにくく捨てやすい、環境にも優しい「ワインのためのペットボトル」の導入などにも取り組んでいます。

製造以外では、藤沢市に根ざした工場であるべく、行政・関係団体様と連携し、「日本一のワインの街 藤沢」をキーワードに、藤沢ワイン祭りを始めとした様々なイベントに協力させていただいております。また、藤沢市の緑豊かな美しい景観の維持・発展を目標に、敷地内の緑地整備や近隣の清掃活動にも取り組んでいます。

今後も様々な取り組みを通じ、ワインのある豊かで潤いのある幸せな時間づくり、さらに魅力あるまちづくりに、微力ながら取り組んでまいります。



## 日本精工株式会社 藤沢工場

- 事業所名** 日本精工株式会社 藤沢工場
- 所在地** 藤沢市鵠沼神明1-5-50
- 代表者** 取締役 代表執行役社長 内山 俊弘
- 工場長** 執行役 工場長 石川 進
- 事業内容** 軸受製造

日本精工株式会社は1916年(大正5年)に日本で最初に軸受(ベアリング)を世に送り出して以来、日本における軸受のバイオンアとして、さまざまな軸受を開発・供給し、産業の発展と機械の進歩に大きく貢献してきました。2016年11月に創立100周年を迎え、軸受の分野で日本第一位、世界でも有数の地位を誇っています。藤沢工場は1937年(昭和12年)に鋼球工場として「藤沢市鵠沼神明」に設立、翌年に軸受工場を建設し、今では大径、小ロット、精密級の多品種の軸受を製造しています。

日本精工株式会社は緑の取り組みとして、2010年に「NSK生物多様性ガイドライン」を制定しました。事業活動との関わりを把握して生物多様性を保全する活動により、影響の低減を図ることを方針としています。

2015年度には日本精工グループにおける社会貢献活動として、絶滅危惧種である野鳥や植物の継続した保護や、外来魚の駆除、県有林での整備活動を実施しています。

藤沢工場では、環境方針に「工場の緑化の維持・向上に努めるとともに、環境に関する社会活動により地域社会へ貢献することで、生物多様性の保全に取り組む」を掲げ、工場の植栽管理、地域の緑化推進協議会への参加等の活動をしています。

また、2015年に藤沢市とNPO法人の協力の下、藤沢地区の日本精工グループ事業所共同で、藤沢市が管理する土地において自然観察会を行いました。この自然観察会は今後の生物多様性の保全及び緑地の保全に貢献する活動の前段として開催し、子どもを含む38人の参加がありました。緑地保全活動と子ども達の自然教育を目的に、継続的な活動を目指して藤沢市と「緑地保全活動に関する協定書」を締結し、2017年度からは年2回の活動を計画していきます。



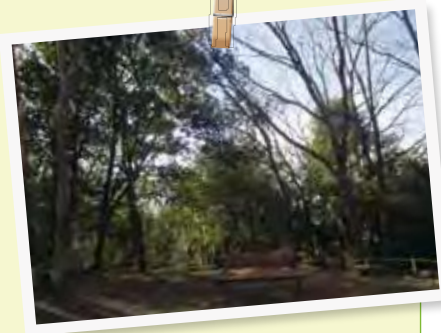
## 公園紹介

# こいとだい 小糸台公園

ひと昔前、藤沢市の西部には雑木林と田畑におおわれた田園風景が広がっていました。今では、湘南ライフタウンとして多くの人々が住まい、見違えるような街に変貌しています。

その一角に、雑木林の面影を残して、小糸台公園が住民に憩いと安らぎの空間を提供しています。そして、人間のためのみならず、田園に暮らしていた動植物の貴重な避難所にもなっているのです。

小糸台公園はおたまじゃくしのような形をした小さな公園です。住宅を建てるには不向きな場所だったのでしょう。狭いながら、崖や急斜面、窪地のような緩



やかな斜面、周囲の自然に溶けこませた人工の池、日当たりの良い所悪い所など複雑な地形が様々な環境を生み出しています。季節ごとの草刈りや落葉かきも、昔の雑木林の環境を保つ助けとなっています。それゆえ、小糸台公園には市内で少なくなってしまった様々な植物が今でも生育して、鳥や昆虫などの動物が訪れ、暮らしています。

春を知らせる小さな花々、夏の緑陰、冬枯れの木立。四季折々の自然の風情。小糸台公園は、人間にとっても、生きものにとっても、都会の中で身近に自然の恩恵にあずかることのできる大切な場所です。

藤沢市自然生態専門員 原田敦子



## 機関紙「緑光」も昨年70号という節目の号を発行させていただきました。

従来はホームページでも同じ内容が見られるようになっておりましたが、先日の役員会議で機関紙は一年の出来事の活動を記載する、記録的な存在。

一方、ホームページでは活動内容の進捗を見る物の存在と棲み分けを行っていく事に決定いたしました。その意味では「緑光」の機関紙は過去の活動内容を振り返る物としては必要不可欠な存在になったと役員一同思っております。

何かとインターネットが普及して、調べるツールが電子化される今日において電子媒体では知りえない部分も、紙媒体では数多く取り入れて活動結果を作成していければ良いと編集委員一同思いながら、今後も活動を進めてまいります。

(シロキ工業株式会社藤沢工場 秋間 記)

## 編集後記